

# 第75回日本詩人クラブ総会

日時 令和6（2024）年6月8日(土)

場所 赤羽会館小ホール



第75回一般社団法人日本詩人クラブの総会が、2024（令和6）年6月8日(土)赤羽会館小ホールで開かれました。出席者は42人、委任状405通で当日の会員数719人の過半数が出席と認められ、定款26条と27条に基づき総会は成立しました。

総会に先立ち、今年度の詩界功労顕彰団体（広島県福山市ふくやま文学館・赤木理恵氏、中国新聞備後本社・久保木要氏）に賞状と盾が贈呈されました。

総会では司会の曾我貢誠理事による開会の言葉、秋山公哉理事長による成立確認、太田雅孝会長による挨拶に続き、2023年4月以降にご逝去が確認された穴戸節子、三上透、大倉元、村山精二、岡田幸子、植村秋江、森口祥子、金南祚、相良蒼生夫、斎藤勇一、谷口謙、阿部堅磐、平野秀哉、安部一美、太原千佳子、エドワード・ボウ、星雅彦、原子修、神品芳夫、なんば・みちこ、伊藤信昭、富長覚梁、幻月心琉真、鷹取美保子、和比古の会員・会友各氏への黙祷が捧げられました。

続いて議長団に竹村啓氏、宮尾壽里子氏が選出され、式次第に従って議事が進められました。

まず理事長から2023（令和5）年度の概況や法人としての事業を報告。順次、将来構想運営委員会／『詩界論叢』（佐相憲一理事）、例会（谷口典子理事）、国際交流（丹羽京子理事）、三賞（尾世川正明理事）、『詩界』（広岡守穂理事＝秋山理事長が代理）、会報「詩界通信」（壱はじめ理事）、総務関係（根本明理事・船木俱子理事）、アンソロジー『日本現代詩選』（草薙定理事）、関西大会・例会（松村信人理事）、地域大会・例会（曾我貢

誠理事)、「新しい詩の声」(田中眞由美理事)、入会(田中裕子理事)、その他(秋山公哉理事長)が報告されました。

主な事業内容としては、規約にある「和暢友愛の精神」のもとに、新型コロナウイルスによる行動制限解除を受け感染予防の対策をとりつつ通常の活動に完全に復帰、『詩界論叢』創刊号を12月に発行、7・9・12・2月に例会、1月に関西例会(岡山)、10月に国際交流を開催、会報「詩界通信」発行、ホームページ運営、三賞の選考と贈呈、前期「新しい詩の声」の贈呈と今期の選考、詩団体への後援、入会・退会業務、国民文化祭への選考委員派遣と表彰式での賞状授与などが報告されました。また、機関誌『詩界』の発行が遅れたことのお詫びと報告もされました。さらに1年間に会員28人、会友10人、計38人の入会が承認され、会員31人、会友3人が退会したことも報告されました。

ここで会場からの質問と意見を受け付け、次のような質問とそれに対する回答がありました。

- 定款では会員は社員になっているのか=定款によると第10条の社員の名称の項に社員を会員と称するとある。次項では前項の会員をもって一般社団法人の社員とするとある。
- 規約と定款の関係は=東京都など対外的な大事なことは定款、会の中の話は規約に定めてある。
- 会費の納入は義務として負わされているのかを確認したい=定款上も規約上も義務だが、納入しないからと退会扱いにはしていない。

以上の各事業報告は採決により異議なく承認。続いて、原詩夏至理事から2023年度決算報告が、庄司進監事・中村吾郎監事から監査報告が行われ、これも承認されました。

引き続き、2024(令和6)年度事業計画案が秋山理事長より提案されました。主な内容は、会の運営及び各事業の推進を図るため毎月1回理事会を開催、2025年6月実施予定の総会に向けて準備、三賞の選考と贈呈式開催に向けての準備、将来構想運営委員会において引き続き将来構想に関わる諸事業の発展を図る、7・9・10・11・12・2月の第2土曜日に例会・国際交流・地域例会を開催、『日本現代詩選2024(通巻第41集)』を発行、隔年発行の『詩界論叢』の第2集に向けての準備と原稿募集、三賞贈呈式や例会、国際交流や地域大会・例会などの映像発信、『詩界』を発行して講演記録や評論・特集記事などを掲載、会報「詩界通信」を4回発行、入会に関して会員からの情報・推薦呼びかけ、2025(令和7)年5月開催予定の福島大会に向けての準備、第8回「新しい詩の声」各賞の贈呈式と第9回「新しい詩の声」の作品募集、「詩界功労顕彰」、詩人団体への後援、2024(令和6)年度会員名簿の11月発行(予定)など。引き続き2024(令和6)年度予算案も提案され、ともに質問・意見等はなく了承されました。

また、2023年の総会において承認され、拠出者に返還された法人設立のための基金300万円が、当クラブに寄付されたことが報告されました。

ここで、総会開催にあたって委任状に書かれた主な意見を紹介します。

- 三団体の中でもっとも着実に伸長を示しているのが詩人クラブだと思う。更なる発展を。
- 世界中で戦争、災難が拡大する中、文学、とりわけ詩の言葉に希望を見出したい。一層の文学水準の向上、普及を期待する。
- 例会で外国人詩人との交流、他ジャンルとの協働、戦後詩の総括などに期待する。

- 『詩界論叢』 創刊号は良かった。
- 会合の開催を東京に集中せず、関西で年2、3回設定してほしい。(関西大会と地域例会、地域大会と関西例会をセットで交互に開催、例会はユーチューブでも視聴できるなど努力していると回答)。

ここで議長団は任を解かれ、竹村氏、宮尾氏のお二人が挨拶。

続いて秋山理事長から、保坂登志子氏の名誉会員推挙が提案され、承認されました。

次に会員の功労顕彰が報告されました。対象者は次の21人です。長久保鐘多氏、堀江泰壽氏、山口敦子氏、石井真弓氏、江島その美氏、大塚欽一氏、小野田潮氏、金堀則夫氏、川島完氏、黒羽英二氏、香野広一氏、小山弓氏、斎藤正敏氏、鈴木豊志夫氏、長津功三良氏、中山直子氏、西田彩子氏、福田美鈴氏、松井郁子氏、山中以都子氏、悠木一政氏。

最後に佐相理事より閉会の言葉があり、総会は無事に終了しました。

(文責・理事長 秋山公哉)

「詩界通信」108号から転載



会員功労顕彰記念撮影

(左)長久保鐘多氏・(中)山口敦子(山口藤女)氏・(右)堀江泰壽氏



議長団(左)竹村啓氏・(右)宮尾壽里子氏



太田会長  
挨拶



司会  
曾我理事



秋山理事長  
議事説明



原理事  
決算報告



閉会の言葉  
佐相理事